あなたにバトンタッチ！

リレーエッセー㊽

ひ・ろ・ば

想いとグチ・先見性

山根　忠さん
（大　中）

趣味　国内外登山、陶芸、つる工芸、球技、スポーツ、野菜づくり、山菜狩り

・自分のこと

会社勤めと議会議員を六十才で満願し、以来自由奔放な暮らしを続けている。

・高齢者のこと

兵庫県いなみ野学園（老人大学）地活二年の時、卒業論文の課題に「地域ボランティア」を取り上げて、実行に移る。

一、社協のもとで「あえの里」での福祉活動

施設利用者と接し、生きておられる姿を自分に映せるのはボランティアに関わる者の特権であり、勉強の機会が得られて嬉しい。

二、シニアソフトボール

自分のできることと想い、立ち上げて五年余りが経過している現在、楽しくプレーしている。何より健康活動が一番と、今あるスポーツクラブへ自ら飛び込む。

三、朝夕、であいの道を歩く

周りを見ると私と同じ年代が多く、健康を願う姿に同感する。もう一つ、今まで培った知恵を奉仕活動に生かしてもらいたいとも想う。

四、何でも「タダ」で

習慣病が横行しており、これを若い人が見ている。甘えを捨てて、社会の手本になる「背中」の映る高齢者を見たいもの。

・古代の村「大中遺跡」

「遺跡まつり」に求められるがままに、かかわった。中でも、「土器の町　播磨町」を真剣に想い、陶芸に身を置く者に賛同を呼びかけたが、考古館の誘致に繋がる道は遠い。役場主導で「土器の町づくり」は恥ずかしい。「古代から未来を拓く町」の主人公は、やはり町民だと想う。

・朝来町のこと

「播磨ふれあいの家」の建設では、議会で一票多く議決した経過がある。異論を唱える人もいまだにあるし、また朝来に物を求める発言もある。

いったん決めて建設したのだから、山と海の町、双方の良さが発揮出来るよう努力することこそ大事だ。

シニアソフトボールでの交流、夏まつり等での交流は良いことで、人の往来から道が拓ける。

これから「特産物」を共同生産するなど、知恵を出してはどうか。

自分も先が読めず、グチを言う高齢者になってしまった。

わんぱくはりまっ子

田中　将大（たなか　しょうた）くん
（5さい）北本荘
元気で思いやりのある男の子になってね
（お父さん・お母さんより）

大山　裕司（おおやま　ゆうじ）くん
（1さい）野添
たくましく思いやりのある子供になってほしいです
（祖母より）

このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。（3歳～5歳対象）広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。

きゃんぱすだより

不思議がいっぱい

播磨中央保育園

▲大きくなったかな

木々の緑が鮮やかになってきました。園庭でも、色々な花の芽が顔をのぞかせています。子どもたちが世話をしてきたあさがお、ひまわりの種も芽を出し、かわいらしい双葉に生長しました。「水を強くかけたら流れてしまうよ」「葉っぱがふえてきたね」と毎日楽しみにのぞきこんでいます。園舎の裏には、もも、りんご、みかんなどの木があり、ももは小さな青い実をつけています。

手の届く所になっている実を優しくさわりながら、「こっちの実は、ちょっとピンク色になってる」「きんかんは、いっぱいなってるなぁ」とみんなで数えて、興味津々です。

みかんの木には花が終わり、小さな小さな実がついていました。「これから毎日見に来ようね」「早く大きくなったらいいのにね」と期待に胸を膨らませています。

みんな仲良しになったよ!!

蓮池幼稚園

▲楽しくゲーム

五月三十日㈭は幼稚園・保育園・老人クラブ交流運動会でした。初めは、おしりふりふりのアヒルのダンス‼　みんなで一緒に踊ると、心も体も弾んできます。

かけっこをしている時、おじいちゃんたちは応援団！「がんばれー‼」の声に、子どもたちは大はりきり。集まりゲームでは、「ぞうはこっちや！」「パンダはどこ？」「おばあちゃん早く早く‼」と声をかけあいながら動物を探してまわりました。

ジャンケンゲームでは、「一緒にジャンケンしよう‼」「おじいちゃん、僕の後ろにつかまってね‼」と子どもたちから話しかけ、おじいちゃんたちも嬉しそう。そしてみんなが一つになって、長い長い電車のできあがり‼

たくさんの人とふれあい、ニコニコ笑顔とやさしさがいっぱいの一日でした。

ふるさとの先輩に学ぶ

播磨小学校

▲復元住居での学習

「こんなに歴史にふれることができるのは、播磨町が一番」これは、六年生の総合的な学習「わが町、歴史再発見」の感想の一部。

新緑に囲まれた大中遺跡で、本校児童の大先輩であり大中遺跡発見者の一人、浅原重利先生が、県教委の新規事業「いきいき学校応援団」として、発見当時の感動を子どもたちの心に点火してくださり、ワクワクする歴史学習へといざなってくださいました。

この事業による県内最初の実践ということで、テレビ局や新聞社のカメラに囲まれましたが、緊張から感動へと燃え上がっていき、貴重な体験学習ができました。

途中から「大中遺跡まつり」でおなじみの歌手・村井敏朗さんも登場。すばらしい歌声が、子どもたちの心に響きわたりました。

みんな、どんな三日間をつくったの？

播磨南中学校

▲みんなそろって、はいポーズ

待望の五月十三日、修学旅行初日です。新横浜までの新幹線は、すごくワクワクドキドキ、にぎやかでした。横浜班行動では自分たちで計画をねったショッピング・観光で友達の輪を広め、おもいっきり楽しんだあとは中華街での食事。外はあいにくの雨でしたが、中は男子のチャイナドレス姿に大にぎわい！

翌日の午前中はクラス行動、午後からはおまちかねのディズニーランドです。そこに一歩踏み入れれば別世界。パレードを見、ショッピングをし、アトラクションに乗って…とみんな目がいきいきと輝いていました。最終日の国会議事堂では、公民の授業を思い返しながら見学しました。あっという間の修学旅行。いつもの学校生活とは一味違った事をいっぱい学び、楽しんだ三日間でした！（三年二組　山田昌代）

HOTホット育児をめざして
母から子へ「10年前」の愛のメッセージ
子育て学習センター

子育て学習センターでは、「お父さんとお母さんはあなたが大好きです。」と子育て真最中に素直に感じた気持ちをこめて書かれた「十年後への手紙」を預かっています。前の両親教育インストラクターの守田連雲子先生が「子育てするお母さんたちはまなざしが温かい。純粋な気持ちを大きくなった子どもたちに伝えたい」という思いで、子どもの四歳の誕生日にお母さんたちから子どもたちへの手紙を預かる事を始められました。その数一六〇通。すでに六通が発送され十四歳の誕生日に中学生の子どものもとに愛情がこもる手紙が届けられました。新聞に「親子のきずな再確認」として記事が掲載され、心温まる反響がある中、子育て学習センターに龍野市総務部企画広報課より次のようなメールが届きました。

「どんな教育的効果があるかなんて関係ありません。受け取った子どもたち、預けたことも忘れていたお母さん。母子の絆を再確認する感動の証そのもの。今の時代に必要なのは情報技術ではなく、「情けに報いる」人と人の関係づくりなのではないでしょうか。ひとつ、またひとつ、こんな感動のドラマが広がっていくことを心から祈ってやみません。」

子育て学習センターでは、子どもから大人へと成長していく時期に、心の中にほっとする愛のメッセージを送り続けたいと思っております。